

【ルセオグリフロジンの肝臓に与える影響について】

研究の概要：

2型糖尿病の患者さんに対するSGLT2阻害薬の内服による治療の治療成績を評価して、肝臓の機能の改善に及ぼす影響について検討することを目的としています。

研究対象：

2019年1月1日から2019年12月31日までに、相澤病院糖尿病センターにて、2型糖尿病の診断でルセオグリフロジンの投与を行った、成人の患者さんの診療録を対象とします。

研究の意義：

SGLT2阻害薬は、昨今、心血管疾患に対する有用性や腎機能に対する有効性を示唆する結果が報告されています。一方、その作用機序からは非アルコール性脂肪性肝疾患等に対しても有効性が期待されます。今回、ルセオグリフロジンの肝機能に対する影響を後方視的研究方法により、検討する予定です。

研究の目的：

本研究は、糖尿病に対して治療を実施した患者さんについて検討し、その治療成績と、肝機能に及ぼす影響について検証することを目的としています。

研究の方法および内容：

相澤病院の診療録データベースを利用して、診療録より必要な情報(患者背景、臨床経過、手術所見、術後経過)を収集し、統計学的な解析を行います。情報収集の作業に当たっては担当者がこれを行います。

個人情報に関する配慮：

人体から採取された試料ではなく、診療録を主とした既存資料を研究に用います。閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されない方法で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は本研究専用で別途割り振られた研究番号を使って管理し、個人情報が院外に出ることはありません。患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申し出てください。

研究責任者：山下 浩

〒390-8510 長野県松本市本庄 2-5-1

社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院 糖尿病センター 山下 浩

TEL 0263-33-8600 / FAX 0263-32-6763